

令和7年度 文部科学省指定中学校人権教育研究発表会 第55回 徳島県中学校人権教育研究大会 第69回 板野郡人権教育研究大会

研究主題

<文部科学省指定研究>

「人間としての誇りをもち、語り合い認め合える人権教育の創造」

<徳島県中学校人権教育研究会>

「人権尊重社会の実現を図るために、差別の現実から深く学び、

すべての子どもの自己実現と共生・共存をめざす教育を確立しよう」

～人権意識の高揚を図り、同和問題をはじめ様々な人権問題解決への

意欲と実践力をもった生徒を育てるための教育を実践しよう～



板野町板野中学校

I 研究の概要

本校の重点行動目標は「時間を守る」「掃除の徹底」「聞こえる挨拶」「とことん続ける」の4つである。日常生活の中で、自分自身に関する観点と他者との関わりの観点から「とことん続ける行動目標」を設定し、達成するための言動を繰り返すことでよりよい生活習慣が形成されると考えている。

本研究では、生徒の日常、人権学習、行事等のそれぞれの取組における経験（学び）を相互に関連付けることにより、人権教育が深い学びとなり、生徒同士が互いに尊重し、語り合い認め合える人権教育の創造を図ることができると考えた。

研究主題

人間としての誇りをもち、語り合い認め合える人権教育の創造



1 体験的な活動を重視した学習

2 外部の人との出会いを重視し、自分自身を振り返る学習

3 思いを伝え合う活動の充実

4 異校種間での交流

5 ICT機器を利用した、思考・まとめ・表現のスキル学習

6 教職員研修の充実

II 研究の実践

1 体験的な活動を重視した学習

平和学習（第2学年）

○第1学年の3学期には、沖縄戦の映像（「なでしこ隊と特攻隊」「さとうきび畠の唄」「ひめゆり」）や新聞（「知る沖縄戦」）などで、戦争を身近に感じながら、資料（「平和ってすてきだね」「チビチリガマヒシムクガマ」「若者たちの戦争」）をもとに学習した。

○第2学年の修学旅行では、糸数アブチラガマ（糸数壕）・ひめゆり平和祈念資料館の見学や、平和の礎で平和祈念式典を行い、戦争の悲惨さを肌で感じるとともに、体験者の方からの講話を聞くことで、命の大切さや平和の尊さについて学んだ。

板野支援学校との交流（第1学年）

6月に板野支援学校の教員の講演を聞き、特別支援学校とはどのような学校なのか、また、在籍している生徒の特性や困難なく生活していくための工夫などについて学んだ。交流会に向け、共に楽しみながら活動できる計画を生徒自らが立案・準備をし、2学期に交流を行った。

板野町人権啓発文化展への出展と見学（全学年）

○人権学習の授業での感想や思いを綴った生徒作品を展示する。

○保護者から子どもへの思いや願いを込めたメッセージを書いた作品を展示する。

○人を大切にしたい、人権が尊重される板野町にしたいといった地域の方や町内の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の園児児童生徒作品などを鑑賞することで、それぞれの作品に込められた作者の思いに触れる機会とする。

板野町人権問題意見発表及び人権問題講演会への参加（第1学年）

- 町内中高生の人権問題意見発表や町内3校の小学生による人権劇を鑑賞する。
- 講演会に参加し、板野町の一員として人権を守り、一人一人を大切にする意識を高める。

2 外部の人との出会いを重視し、自分自身を振り返る学習

「板野塾」^{※1}による講演会と交流（全学年）

NPO法人LOHALOHA LAND（山本麻里さんと佐藤理佐さん）の講演会（6月）
小児がんなどの病気と闘う子どもと家族に笑顔を届けたいという思いから開設したKids YouTube
[ロハロハちゃんねる] や、全国の病院へのおもちゃを届ける活動について学んだ。

識字学級との交流（第2学年）

- 各学級の代表者が識字学級に参加し、学級生の温かい人柄や思いに触れる交流を通して、実感したことを各学級で語り、他の生徒と共有した。
- 西本篤人さんの人権コンサート「歌やひとから学ぶ人権」に参加し学んだ。

3 思いを伝え合う活動の充実

「明日への扉」^{※2}による日々の振り返り（全学年）

「明日への扉」を用いて、「自分自身のこと」「他者と関わること」について「とことん続ける行動目標」を設定し、日々の生活の中で目標の達成状況を振り返る。目標が達成できれば、更に高い目標を設定しチャレンジしていくことを繰り返している。

思いを伝え、思いを受け入れる学級・学年集団の雰囲気づくり（全学年）

毎週水曜日を学級でのレクリエーション活動の日とし、構成的グループエンカウンターやSSTを通して互いにコミュニケーションを図り、仲間づくりの機会としている。定期的に学年全体でレクリエーション活動を行った後、全体で振り返りをし、活動をしてよかった点などを発表し合った。

4 異校種間での交流

隣接する保育園と町内小学校との様々な交流の機会（第2・3学年）

- 体育祭予行でのダンス、保育実習、職場体験学習における保育園との交流を通して、地域とのつながりや自分の成長を客観的に実感する取組となっている。
- 「拉致問題に関する中学生サミット」に参加した生徒が小学校を訪問し講演を行った。

5 ICT機器を活用した、思考・まとめ・表現のスキル学習

「自立型人間」^{※3}の育成をめざしたICT機器の活用

人権学習や各教科、行事等の中でタブレットを活用し、調べたことや考えたことなどをまとめ、生徒間で情報や思いの共有化を図る。また、これまでの自分や他者の人権学習の成果を振り返ることで人権学習の学びをつなげていく。

※1 板野塾：本校の「可能性、自己肯定感、本気の大人の姿を見せる」をテーマにした講演会

※2 明日への扉：板野中学校独自のキャリアパスポート

※3 自立型人間：周りの人に愛され、他者の夢を応援できるようになることを通じて、自信をもって社会へ貢献できる人間

6 教職員研修の充実

- 板野町学校人権教育研究会と学年研修による研究授業と授業研究会を兼ねることで、町内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校との連携及び交流を図る。
- 学年の授業研究会で各学級の人権学習の取組・情報交換を行い、各学級に応じた人権学習の構築を図る。
- ICT機器を活用した授業づくりについての研修を実施する。
(タブレットの活用・指導方法・評価)
- 板野町行政・教職員人権問題研修会へ参加する。
(初任者・転入者研修、第1次研修、第2次研修)

III 研究の成果と課題

1 研究の成果

「人間としての誇り」

自分や周りの人を大切にするとともに、学校や板野町を好きになり大切に思えるようになってきた。

「思いを認め合える関係づくり」

自分の思いを語ったり、文章で表現したりするなど、互いを尊重しながらコミュニケーションを図ることができるようになってきた。

「自己肯定感の向上」

自分のよいところを理解し、自分のことが好きになり、将来の夢を実現するための目標をもつことができるようになってきた。

2 今後の課題

学んだことが普段の生活に生かせていない場面もあり、自分事として考えられる授業展開や発問の工夫をする。

「明日への扉」の意義などを確認し、自分の将来を真剣に考え、目標を達成するために、自らの行動の振り返りを習慣化できるようにする。

個々の生徒や集団の実態に応じた人間関係づくりの在り方を模索し、「互いを認め合える集団」を意識した人権学習を更に進めていく。